

年頭挨拶



学校法人 福岡学園 理事長

水田 祥代



令和5年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

今年の干支は、癸卯（みずのとう）です。これから成長や飛躍のために力を溜め、準備し、育んできたことが十分に実り、芽吹き始める年だそうです。早い人は大きく飛躍し、一気に広まり始める、努力がいっぺんに実り始める年となるそうです。

さて、昨年の出来事を振り返ってみると、世界では、ロシアによるウクライナ侵攻、北朝鮮によるミサイルの発射実験、中国による台湾近郊での軍事訓練など、わが国より身近なところで軍事的脅威を感じる出来事がありました。特にウクライナ侵攻ではいろいろな物の価格を上昇させ、我々の生活にも大きな影響を与えました。

また、新型コロナウイルス感染症もなかなか収束の方向に向かわず、中国ではゼロコロナ政策を実施し、中国経済のみならず、世界の経済も大きな打撃を受けることとなりました。

このような国外での情勢は、本学にも影響を与え、皆さんご存知のとおり、電気・ガスなどのインフラ料金の値上げ、建築部材の高騰による建設費の上昇などが起こっています。

それでは、本年の重点項目を述べます。

まず、「口腔医学の推進」として

超高齢社会の中で、口腔の健康から全身の健康を守るという

「口腔医学」の理念を医療・介護の現場で実践するとともに、口腔医学の理念に基づく教育研究の充実を図る。また、3大学共同の口腔医学教育について検討する。

第二に「教育の質的転換」として

学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）等に基づく内部質保証活動を実践し、教育方法の改善に取り組む。歯科大学は、共用試験及び臨床能力試験の全員合格と国家試験新卒合格者数の増加を目指す。看護大学及び短期大学は、国家試験の全員合格を目指す。

第三に「研究の質的転換」として

口腔医学研究センターにおいて学園3大学の研究基盤を強化し、独自の先駆的研究や国内外の研究機関との共同研究等を推進するとともに、研究マインドを持つ学部学生、大学院生の育成の場として活用する。

以上を重点項目としたいと思います。

現状に甘んじず、前向きにこの重点項目に取り組み、皆さんが高い成果を上げられるように今年も日々精進して頑張っていただければと思います。

最後になりますが、本学にとつても皆さんにとっても今年が実り多き年となることを祈念して年頭の挨拶といたします。今年も明るく楽しく前向きに（A.T.M）頑張っていきましょう。

第四に「学生の受け入れ・支援」として

口腔医療、口腔保健、看護を志向する意欲ある優秀な学生を確保するため、大学の強みや魅力を最大限に伝えられる広報戦略を検討するほか、Web媒体での広報活動への移行について検討する。また、多様化する学生のニーズに対応できる修学支援体制の充実を図る。

第五に「社会との連携・貢献」として

安全・安心で高度な医療を推進し、病診連携の拠点として地

それに加えて、本学は現在学生の定員未充足の状態も続いており、学園の財政は厳しい状況を強いられています。

そのような中でも福岡学園と福岡歯科大学は、2022年度に創立50周年を迎えた。昨年7月には、全国から来賓をお招きして記念式典を開催することができました。皆さんと先達たちが作り上げてきた50年という一つの節目と一緒に祝うことができたことを大変嬉しく思います。

ご来賓の方々からも素晴らしい式典だったとお褒めの言葉を多数頂戴しました。私たちはこの声に応えて、更なる50年、100年へと着実に歴史を積み上げて発展し続けていかねばなりません。

また、昨年は歯科大学で新たに6人の教授が誕生し、そのうち4名が女性教授でした。准教授でも6名の先生が昇任されました。これらの新たな教授・准教授の先生方がこれから歯科大学の中核となって活躍していただけることと期待しています。

最後に「組織運営・財務」として

組織力を高めるため、人材育成に注力するとともに、本学園が永続的に維持・発展し、安定した財政基盤を確立するため、学園全体として経費節減に努めるほか、学園3大学では入学定員の充足に、医科歯科総合病院、介護老人保健施設では収支改善に努める。また、学修環境充実のため、新キャンパス整備計画を促進する。

